

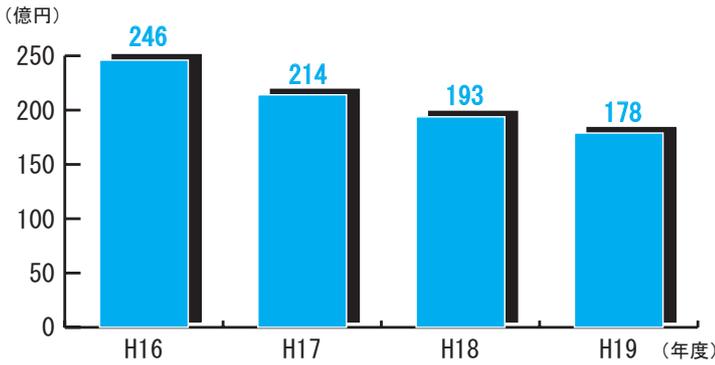
# 新しい時代を担う体力づくり

## 平成18年度の行政改革の実績について

第27回

平成18年度の行政改革は、養父市が合併して間もないことに配慮し、市民の皆さんに直接影響を与えない分野から着手する予定でしたが、「実質公債費比率」（平成18年9月号で紹介）が導入されたことで大きく状況が変わり、大変厳しい取り組みとなりました。しかし、市民の皆さんのご理解とご協力を得ながら、職員総参加でさまざまな取り組みを進め、どうか一定の成果を得ることができました。今月号では、この実績の一部を紹介いたします。

グラフ① 一般会計予算額の推移



**① 予算規模の縮小**  
平成19年度予算編成は、平成18年度から導入した「枠予算編成方式」を改良しつつ実施し、約15億円を圧縮しました。（グラフ①参照）  
※枠予算編成方式とは…予算総額をあらかじめ算定したうえで政策に基づき重点配分を行い、細部については、設定された枠の中で各部署が予算を編成するものです。本市では、これに事務事業評価や補助金審査の結果を反映させて、より効果的な運用を行っています。

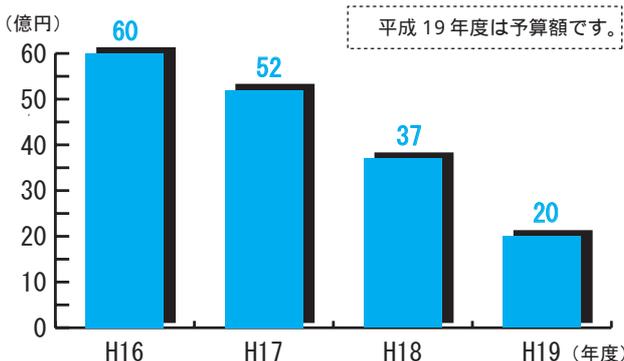
**② 主要建設事業などの見直し**  
1千万円以上の建設事業について、優先順位に基づき、凍結・縮小・繰り延べなどを行い、投資的事業の抑制と実質公債費比率の改善に努めました。（グラフ②および③参照）

**③ 補助金・負担金の整理合理化**  
「養父市補助金等審査委員会」が行った団体補助金の審査結果を踏まえて抜本的な見直しを行い、約1.8億円を削減しました。各種団体の皆さんのご理解に深く感謝します。

**④ 定員管理および給与の適正化**  
職員が勧奨退職する一方で、新規採用を抑制したほか、各種手当をカットして、給与の適正化に取り組みました。

取り組みの結果、人件費については、平成16年度から3年間で約7億円を削減しました。

グラフ③ 建設事業費の推移



グラフ② 実質公債費比率の比較

